

立地 日差山山塊の鷹巣山頂部に立地する。南東側 600 m の日差山頂部には日差山城跡が、尾根伝いに南側 800 m 離れた仕手倉山頂部には練尾氏城跡が位置する。城の北側には造山城跡や庚申山陣跡を見下ろすことができ、さらに北東方向に備中高松城跡や石井山陣跡等を視認できる。

概要 城は大きく二面の曲輪で構成されるが、いずれも削平がやや弱く自然地形を多く残す。北側の眺望に非常に優れており、これが立地の主要因と考える。略長形状の曲輪 I は南側背後を幅広い堀切で分断し、郭面の南端に幅広の土塁が築かれていた。土塁の南側から東側にかけては、石材を 4～5 野面積みにした石積みを設ける。南側から東側にかけて、石積みは鈍角に屈曲する。ただし、この地点には日差寺の行堂が所在したという伝承もあり（文献 69 『庄村誌』など）、石積みが築城に伴うか否かについては不詳とする見解もある（文献 73 『新修倉敷市史 第二巻』）。曲輪 I の西側 2～3 m 下方にある曲輪 II は南側が 50cm 程一段高くなり、さらに南端は土塁状にやや高まっていた。北方は崖面となるため、なだらかな背後側のみ幅広く深い堀切で遮断して守りとした構造と評価する。

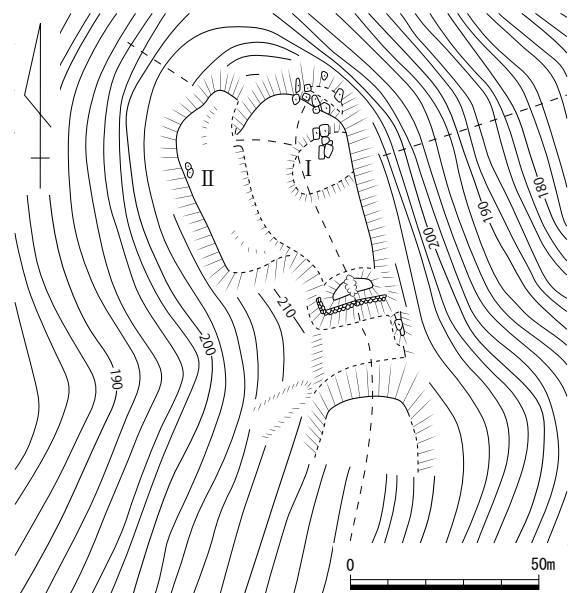
文献・伝承 『中国兵乱記』『陰徳太平記』には、天正 10（1582）年高松城攻めに際して毛利軍は日差山城に陣を置いたことがみえる。鷹巣城は日差山城と尾根伝いであり、距離も近く、高松側への眺望に優れていることから、当城に関しても天正 10 年の高松城攻めとの関わりが示唆される。（上村）



写真 185 頂部から北東を望む



写真 186 土塁南西隅の石積み



第 360 図 鷹巣城跡縄張り図 (1/2,000)